

# 『稿鹿の子餅』に用いられる文字についての研究

## はじめに

明和九年に刊行された『稿鹿の子餅』<sup>①</sup>は、噺の内容・書型など、後続の噺本に与えた影響を考えると江戸小咄本の開基と称されるにふさわしい噺本である。先に、文字認識システムの構築を目指す研究を行うにあたり、主に安永期に刊行された草双紙仕立の噺本に用いられる文字について調査を行った。本論考では、これら草双紙仕立噺本に再録される咄の供給源であり、安永期に刊行された噺本の典型ともいえる『稿鹿の子餅』の文字情報を調査し、安永期に刊行される小咄本に用いられる文字についての特徴の一端を明らかにすることを目的とする。

## 平仮名

『稿鹿の子餅』には、次の九十四種の平仮名が用いられている。

「あ」(安・阿)、「い」(以)、「う」(宇)、「お」(於)、「か」(可)・  
加・歟)、「き」(幾・希・起)、「く」(久)、「け」(計・介・遣)、「こ」  
「己・古)、「さ」(左)、「し」(之・志)、「す」(寸・須・春・寿)・  
「せ」(世・勢)、「そ」(曾・楚)、「た」(多・太・堂)、「ち」(知)・  
「つ」(川・徒・津・都)、「て」(天・帝)、「と」(止・登)、「な」(奈・  
那)、「に」(尔・丹・仁・耳)、「ぬ」(奴)、「ね」(称・年)、「の」  
「乃・能・農)、「は」(者・盤・波)、「ひ」(比・飛・悲)、「ふ」(不・  
婦)、「へ」(部・遍)、「ほ」(本・保)、「ま」(末・満・万)、「み」  
「美)、「む」(武・無)、「め」(女・免)、「も」(毛)、「や」(也)、「ゆ」  
由)、「よ」(与)、「ら」(良・羅)、「り」(利・里)、「る」(留・類・  
流)、「れ」(連・礼)、「ろ」(呂・路)、「わ」(王・和)、「ゐ」(為)・

島	田	大
三	輪	多
舟	保	恵
久		子
好	哲	登
	也	

「ろ」(恵)、「を」(遠・越)、「ん」(无)。

拙稿「黄表紙仕立喃本に用いられる文字についての研究」(以下拙稿と略す)に於いて報告を行ったが、『話鹿の子餅』から五話の話を利用する『豊年俵百喃』(安永四年刊)では六十二種、八話の話を利用する『頓作万八喃』(安永五年刊)では六十四種の平仮名が用いられている。調査を行った他の草双紙仕立の喃本に用いられる平仮名を含めると七十五種の平仮名が確認できた。『話鹿の子餅』には、これら草双紙の書型を持つ諸書に用いられる文字に、「あ」(阿)、「か」(加・歟)、「き」(希)、「せ」(勢)、「た」(堂)、「つ」(津・都)、「て」(帝)、「な」(那)、「に」(丹・耳)、「の」(農)、「ひ」(悲)、「ま」(万)、「む」(無)、「め」(免)、「ら」(羅)、「る」(類)の十九文字を加えた平仮名が使用されていることが確認できる。この調査結果は、江戸小咄本から草双紙仕立の喃本に喃を再出するにあたり、複数の平仮名が別の字母をもつ平仮名に変更されていることを示しており、使用される文字が減じていく様子が伺えるものとなっている。

## 片仮名

『話鹿の子餅』には次の三十六種の片仮名が用いられている。  
 『ア』、「イ」、「ウ」、「カ」、「キ」、「ク」、「ケ」、「コ(ゴ)」、「サ」、「シ」、「ス」、「ゼ」、「ソ」、「チ」、「ツ」、「テ」、「ト」、「ナ」、「ニ」、

「ノ」、「ハ(バ)」、「フ」、「ホ」、「マ」、「ミ」、「ム」、「モ」、「ヤ」、「ヨ」、「リ」、「ル」、「レ」、「ワ」、「エ」、「ヲ」、「ン」。

前掲の草双紙仕立の喃本を対象とする調査では、「ク」をのぞく三十五種の片仮名を確認している。片仮名の利用については、『話鹿の子餅』と草双紙仕立喃本の間には大きな違いがないことが分かる。

## 漢字

今回の調査で際違った違いが明らかになったのは漢字の利用状況である。拙稿に於いて、十種類の草双紙仕立の喃本に用いられる文字についての報告を行ったが、それらに使用された漢字は三百四十三種であった。一方、今回行った調査によって、『話鹿の子餅』には七百六十四種の漢字が使用されていることが明らかになった。「出」「見」「人」など六十箇所以上に用いられる漢字もあるが、三百三十種の漢字が一箇所のみであり、その他の多くの漢字も数回程度の利用にとどまっている。「人」等の漢字の他、同じ漢字が同一喃内に用いられる場合は、ルビが省略されることもあるが、他の漢字については原則としてルビが付されるという特徴を持つ。

## まとめ

本論考で行った文字情報の調査を通じ、『話鹿の子餅』には平仮名九十四種、片仮名三十六種、漢字七百六十四種が使用されていることが明らかになった。草双紙仕立の喃本に比べ、別の字母を持つ平仮名及び漢字の利用が多いことが確認できた。草双紙が絵本であるという特徴を考慮すれば、咄の供給源になっている安永期の喃本に使用される文字の数との間に大きな差があることはあらかじめ予想できたことである。当時の読者にとつては、これらの漢字にはルビが付されているため、読解に困難は生じなかったと思われる。喃本から草双紙仕立の喃本、つまり、より簡単な読み物へと移行する場合、喃の内容に違いはななくとも、用いられる文字については、より容易なものへと換えられていることが指摘できよう。

文字認識システムの構築を行うためには、平仮名、片仮名に加え、膨大な数の漢字及び漢字に付されるルビをどう認識するかが問題となる。今後の大きな課題である。

話鹿の子餅 (明和9年刊・鱗形屋)

平仮名	数		平仮名	数		平仮名	数		片仮名	数	片仮名他	数
安	210	あ	都	1	つ	女	90	め	ア	11	エ	1
阿	3	あ	天	511	て	免	15	め	イ	13	ヲ	4
以	510	い	帝	8	て	毛	297	も	ウ	2	ン	2
宇	416	う	止	567	と	也	336	や	カ	2	ヽ	89
於	167	お	登	42	と	由	59	ゆ	キ	3	ヅ	11
可	590	か	奈	300	な	与	151	よ	ク	2	ヽ	11
加	8	か	那	59	な	良	260	ら	ケ	2	ヅ	1
歟	2	か	尔	199	に	羅	3	ら	コ	12	ヾ	60
幾	279	き	丹	46	に	利	272	り	ゴ	1	ハ	6
希	47	き	仁	50	に	里	59	り	サ	1		
起	8	き	耳	12	に	留	183	る	シ	3		
久	293	く	奴	61	ぬ	類	24	る	ス	1		
計	122	け	称	29	ね	流	1	る	ゼ	1		
介	8	け	年	26	ね	連	194	れ	ソ	2		
遣	5	け	乃	370	の	礼	68	れ	チ	3		
己	386	こ	能	51	の	呂	73	ろ	ツ	8		
古	11	こ	農	1	の	路	24	ろ	テ	11		
左	279	さ	者	227	は	王	88	わ	ト	7		
之	523	し	盤	77	は	和	13	わ	ナ	7		
志	147	し	波	12	は	為	42	み	ニ	2		
寸	148	す	比	160	ひ	恵	11	ゑ	ノ	4		
須	85	す	飛	30	ひ	遠	125	を	ハ	142		
春	32	す	悲	1	ひ	越	45	を	バ	36		
寿	2	す	不	192	ふ	无	347	ん	フ	1		
世	145	せ	婦	10	ふ				ホ	1		
勢	3	せ	部	196	へ				マ	2		
曾	119	そ	遍	6	へ				ミ	142		
楚	57	そ	本	50	ほ				ム	2		
多	458	た	保	24	ほ				モ	3		
太	21	た	末	327	ま				ヤ	15		
堂	9	た	満	29	ま				ヨ	1		
知	163	ち	万	1	ま				リ	11		
川	334	つ	美	7	み				ル	1		
徒	17	つ	武	64	む				レ	3		
津	16	つ	無	1	む				ワ	2		

漢字	数	漢字	数	漢字	数	漢字	数	漢字	数	漢字	数	漢字	数
出	62	朝	14	雪	9	神	7	左	5	雨	4	削	4
見	61	名	14	錢	9	国	7	理	5	返	4	稿	3
人	60	申	14	百	8	戸	7	頼	5	娘	4	餅	3
一	45	本	13	向	8	隠	7	袋	5	七	4	飛	3
御	43	上	13	爪	8	字	7	友	5	袖	4	腹	3
事	43	扱	13	不	8	乞	7	亭	5	隣	4	数	3
所	41	町	12	五	8	勢	7	世	5	度	4	嶋	3
大	39	早	12	廻	8	話	6	水	5	殿	4	宝	3
来	37	聞	12	九	8	六	6	高	5	被	4	件	3
何	36	分	12	相	8	太	6	原	5	付	4	惣	3
居	35	此	11	兵	8	過	6	問	5	承	4	割	3
物	32	口	11	坊	8	思	6	頭	5	酒	4	断	3
手	29	衛	11	起	8	安	6	川	5	髭	4	頃	3
入	29	主	11	給	8	寐	6	跡	5	夫	4	地	3
時	28	用	11	料	8	外	6	参	5	久	4	柳	3
下	25	次	11	座	8	持	6	足	5	板	4	蔵	3
中	24	二	11	身	8	近	6	薪	5	食	4	浪	3
様	23	客	11	三	8	遊	6	附	5	寄	4	張	3
行	21	唐	11	前	8	南	6	方	5	爰	4	右	3
子	20	是	10	鹿	7	流	6	仁	5	貴	4	遣	3
者	20	代	10	山	7	筆	6	込	5	濟	4	垣	3
日	19	又	10	尻	7	買	6	落	4	野	4	覗	3
屋	18	息	10	猿	7	田	6	長	4	敷	4	留	3
心	17	無	10	味	7	文	6	兒	4	芝	4	肝	3
内	17	目	10	月	7	四	6	我	4	舞	4	工	3
書	17	間	10	風	7	玉	6	切	4	便	4	劔	3
取	16	立	10	馬	7	音	6	若	4	母	4	術	3
今	16	鼻	10	父	7	帳	6	遠	4	側	4	侍	3
通	16	言	10	先	7	面	6	蹴	4	石	4	看	3
道	15	八	9	門	7	裏	6	庭	4	階	4	喰	3
親	15	明	9	案	7	糞	6	少	4	匂	4	千	3
夜	15	仕	9	好	7	和	5	剃	4	壳	4	之	3
小	15	家	9	直	7	古	5	具	4	番	4	船	3
這	15	十	9	声	7	鞠	5	穴	4	角	4	知	3
郎	14	其	9	指	7	両	5	婦	4	最	4	谷	3
成	14	気	9	引	7	橋	5	旦	4	将	4	初	3
合	14	有	9	女	7	咄	5	那	4	箱	4	夢	3

漢字	数												
達	3	慶	3	打	2	平	2	灸	2	秬	1	私	1
丸	3	序	2	市	2	沢	2	駒	2	岩	1	曉	1
士	3	意	2	丞	2	試	2	由	2	犀	1	頰	1
江	3	云	2	病	2	生	2	負	2	波	1	筈	1
経	3	壬	2	得	2	至	2	菜	2	煙	1	応	1
男	3	辰	2	芳	2	敵	2	設	2	艸	1	儀	1
床	3	桃	2	念	2	兜	2	房	2	裂	1	元	1
死	3	鬼	2	才	2	途	2	建	2	望	1	表	1
屁	3	犬	2	寒	2	細	2	審	2	実	1	埒	1
画	3	団	2	湯	2	違	2	体	2	盛	1	蜜	1
関	3	腰	2	躰	2	執	2	兇	2	蝶	1	柑	1
自	3	牛	2	勘	2	辜	2	集	2	曾	1	限	1
第	3	乘	2	新	2	崎	2	伊	2	油	1	照	1
金	3	噌	2	為	2	耳	2	姫	2	損	1	煩	1
昼	3	白	2	老	2	首	2	車	2	徳	1	須	1
寺	3	赤	2	翌	2	妙	2	榻	2	芸	1	皮	1
越	3	形	2	茶	2	感	2	鮮	2	隅	1	医	1
節	3	貫	2	松	2	横	2	卷	2	俄	1	針	1
辻	3	異	2	品	2	端	2	比	2	程	1	驗	1
逢	3	後	2	師	2	宣	2	丘	2	胸	1	転	1
談	3	店	2	氷	2	源	2	尼	2	盜	1	帆	1
吹	3	欠	2	悔	2	折	2	押	2	壁	1	毒	1
鳶	3	壺	2	免	2	開	2	柱	2	挑	1	了	1
語	3	点	2	誰	2	脇	2	以	2	灯	1	簡	1
軍	3	尽	2	恋	2	刀	2	義	2	晴	1	机	1
公	3	真	2	繁	2	雷	2	同	2	肘	1	冊	1
呼	3	花	2	北	2	豆	2	步	1	葬	1	眉	1
鳴	3	葉	2	海	2	腐	2	拾	1	透	1	皺	1
喜	3	鶉	2	牽	2	評	2	帖	1	咲	1	宿	1
借	3	匠	2	送	2	判	2	響	1	情	1	棚	1
牢	3	衆	2	万	2	或	2	題	1	哥	1	春	1
武	3	舌	2	年	2	紙	2	深	1	捨	1	漬	1
蕎	3	格	2	駕	2	王	2	旨	1	捻	1	富	1
麦	3	別	2	随	2	帶	2	読	1	預	1	舎	1
鞞	3	諸	2	修	2	傾	2	渡	1	甚	1	堺	1
利	3	弟	2	嵯	2	城	2	多	1	悦	1	狂	1
弁	3	暑	2	峨	2	背	2	供	1	宗	1	鎧	1

漢字	数												
誹	1	玄	1	懷	1	盆	1	潰	1	尋	1	奴	1
府	1	宜	1	忝	1	吸	1	漸	1	底	1	覽	1
機	1	仰	1	鎗	1	勝	1	𠂇	1	葉	1	香	1
嫌	1	拙	1	疝	1	婦	1	組	1	鐘	1	既	1
丁	1	鼠	1	土	1	路	1	紅	1	釜	1	凡	1
寧	1	腸	1	塚	1	減	1	重	1	湊	1	勇	1
礼	1	肴	1	迄	1	朱	1	縉	1	替	1	旅	1
銀	1	西	1	血	1	鞘	1	溜	1	揚	1	功	1
当	1	奢	1	鐘	1	羽	1	鑿	1	議	1	迎	1
昨	1	郷	1	鉢	1	織	1	忍	1	智	1	吟	1
晚	1	沙	1	奇	1	編	1	辨	1	恵	1	位	1
奥	1	汰	1	枚	1	笠	1	天	1	候	1	然	1
尉	1	歌	1	詩	1	提	1	詣	1	宵	1	粟	1
露	1	旧	1	筋	1	各	1	軒	1	雇	1	司	1
唄	1	景	1	記	1	力	1	怪	1	拍	1	屎	1
瓢	1	井	1	召	1	場	1	昌	1	踏	1	果	1
残	1	鱸	1	条	1	积	1	慢	1	軽	1	終	1
皆	1	茂	1	畠	1	迦	1	頭	1	菖	1	歳	1
祐	1	治	1	素	1	嶽	1	助	1	蒲	1	正	1
役	1	禅	1	袍	1	堂	1	騰	1	革	1	吉	1
幸	1	極	1	竹	1	札	1	駄	1	染	1	傳	1
兼	1	未	1	非	1	木	1	慾	1	退	1	肆	1
法	1	熟	1	連	1	困	1	満	1	屈	1	鱗	1
会	1	額	1	喧	1	偶	1	願	1	呉	1	孫	1
放	1	幟	1	嘩	1	辞	1	陣	1	兎	1		
粹	1	孕	1	騷	1	肌	1	稻	1	練	1		
廊	1	廿	1	𠂇	1	豎	1	荷	1	轡	1		
盲	1	作	1	腕	1	碁	1	納	1	片	1		
草	1	速	1	能	1	裡	1	受	1	烏	1		
臥	1	振	1	冷	1	竈	1	散	1	器	1		
罷	1	炮	1	呂	1	飯	1	米	1	色	1		
泉	1	禄	1	空	1	焚	1	夕	1	肩	1		
則	1	霞	1	光	1	衣	1	部	1	等	1		
恭	1	仲	1	觀	1	類	1	奔	1	権	1		
乳	1	仏	1	唱	1	倦	1	狐	1	更	1		
鳥	1	頂	1	際	1	困	1	可	1	火	1		
佐	1	休	1	広	1	撲	1	愛	1	勿	1		

【注】

- (1) 調査は、東京大学総合図書館蔵本（電子版霞亭文庫）による。
- (2) 拙稿「黄表紙仕立喃本に用いられる文字についての研究」（豊橋創造大学紀要第十一号、平成十九年三月十五日）

【付記】

本研究は、元豊橋創造大学学長鈴木安昭先生のお勧めにより開始したものである。先生の御示教に深謝申し上げる。

なお、本稿は平成十八年度科学研究費補助金基盤研究（C）「江戸版本の読解を支援する運筆特徴を考慮したつづき文字の認識に関する研究」の研究成果の一部である。